

城だより

第689号

日本古城友の会・会報

令和8年(2026)5月10日発行

播磨 姫路城を知り尽くした講師と歩く 外濠と城門跡探訪 (6月・752回例会)

日時：令和8年6月7日(日)現地集合 雨天決行 (行程変更あり)

集合：JR 姫路城駅北口 姫路市観光案内所前付近9時50分集合

行程：JR 姫路駅 → 北条門 → 外濠公園 → 正法寺(池田輝政供養塔) → 外京口門 → 五国橋 → 同心橋 → 堀留 → 外濠北部(あてまげ・ノコギリ横丁) → 野里門跡 → シロトピア公園(昼食) → 清水門跡 → 千姫の小怪 → 市之橋門跡 → 車門 → 埋門跡 → 備前橋 → 備前門跡 → 飾磨門跡 → 姫路駅16時解散(予定)

アクセス： 京都駅 大阪駅 姫路駅
7:59(新快速 姫路行) → (8:27着/8:30発) → 9:34着

担当幹事：高菅純子・平川大輔

持ち物：弁当(出発までに購入をお願いします)・飲料・敷物・タオル・帽子。マスクの着用は各自の判断をお願いします。

*街歩きですので、スニーカーなど歩きやすい靴・服装でご参加ください。

参加費：正会員・賛助会員800円、通信会員・当日参加者1,000円

(下見費用・レクリエーション保険・講師謝礼・記念写真代として)

案内講師：中川秀昭氏(姫路城を守る会元理事長)

講師紹介：姫路市役所に奉職され、姫路市立城郭研究室長を退官後、姫路城を守る会理事長に就任。退任後は、姫路城の顕彰と普及・啓発に取り組んでおられ、著書「姫路城を歩く」では、姫路城を楽しめるエピソード、見落とししがちなポイントを写真などで紹介している。2009年当会で開催した姫路城非公開エリア特別見学会の案内講師を務めて頂いた。

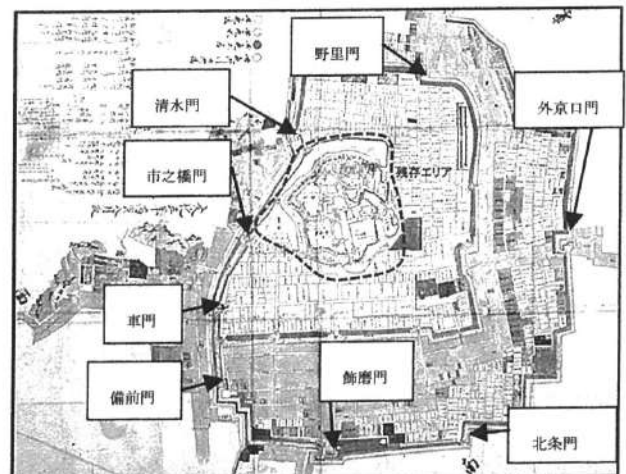
問合せ：平川大輔

(開催は新型コロナ感染状況によります。必ずホームページを確認の上ご参加ください。)

【今回の見どころ】

普段訪れない姫路城外堀跡を堪能する見学コースです。姫路城の東側外堀からスタートし、現存する遺構を楽しみながら散策していただきます。途中には、池田輝政供養塔のある正法寺など、スペシャリスト講師の案内がなくては通り過ぎてしまう姫路城外堀遺構と城門跡を歩いてみませんか。有料エリアには入城しません。ご了承ください。

(姫路城下絵図(文化三年記) DeAGOSTINI 日本の城から 一部改変)



【主郭】

主郭に通じる登城路は屈折を繰り返し、上方の郭から常に横矢が掛かる。帯郭を経由しながら何段もの郭の間を縫うように登る構造は、恒屋城の縄張りの技巧性を体感できる区間である。登城路が最後に右に曲がる辺りにて大量の瓦の破片を確認できた。全て同じ厚みで平坦な瓦だった。

後城の西側面にも畝状堅堀群が存在するが、現状では藪の中に埋もれており確認が難しい。二の郭からの道は藪なので、畝状堅堀群の上から斜面を下れば見られるようだが、例会では行くのは無理と判断したので未確認。

後城の最高所に位置する主郭からは眺望が開ける。地元の方が伐採・整備を行っており、城址碑が建てられている。主郭背後の堀切は最後の防衛線になっており、現在はなんとか斜面を下ることができる。その北側周辺にも堅堀らしき遺構を見受けられることから、堅堀も堀切も単体ではなく複数の堅堀と組み合わせるのが、この城の特徴と感じられる。

主郭南部の堅堀は下見段階では見られないと判断していたが、下の段曲輪から行けることがわかったので見学した。現在でも斜面に1m以上の深さを確認できる堅堀で見ごたえがある。上の看板の所からも降りられる。主郭での休憩中に有志だけで見学に行こうとしたが、ほぼ全員来てしまった。みんな堅堀大好きなんやね。

●補足事項

現在の登城路は南側の前城を経由するルートであるが、西側斜面から直接二の郭に至る旧ルートが存在する。標高130m付近の分岐で確認でき、城が現役であった当時の本来の大手口であった可能性が高い。整備が行き届いた区間と藪に覆われた区間が混在しているのが実情であるが、主要な遺構が明瞭に観察できる状態が保たれているのは、地元の方々の整備のおかげである。感謝したい。

今回の例会では駅からの長い道のりを歩くことになり大変でしたが、城自体は高くもなく天気も良かったので、10代から80代の参加者全員がロープを張って斜面を上り下りし、ブッシュをかき分けて進んで、前城と後城を取り囲むように構築された畝状堅堀群を見学するなど山城の醍醐味を堪能した見学会となりました。参加された皆様、お疲れさまでした。

報告 川村敦史



主郭の虎口



主郭を見学する参加者

日本古城友の会

会長 中西 徹

事務局 事務局長 平川 大輔

HPアドレス <https://www.kojyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力